

# 針入れについて

10/12/2009

Y.Saito

現在、針入れの報告書を集めている最中である。その中で遺物に彫刻を施しているものを扱った論文や、オホーツク文化の遺跡の他、道北道東以外のオホーツク文化が少なからず関与していた遺跡において「針入れ」を探し彫刻や形態の似たものを探し関連性がないかを探している。その中でフゴッペ洞窟内に鈴谷貝塚から大量に出土した絵画彫刻が施された針入れに似たものが出土していた。今後、フゴッペ洞窟以外にも出土していないか報告書を探してみるつもりである。

## 1. 主要な遺跡と出土時代

- 礼文町浜中2遺跡 (続縄: 前1世紀)
- 礼文町香深井A(1)遺跡 (オホ刻文: 6~7)
- 根室市弁天島遺跡 (オホ刻文: 6~7)
- 網走市最寄貝塚 (オホ浮線文: 8~)
- 根室市オンネモト遺跡 (オホ浮線文: 8~)
- 羅臼町オタフク岩洞窟遺跡 (トビニタイ(擦文): 12~13)

※南樺太島北貝塚 (鈴谷: 3~5)

※稚内市オンコロマナイ貝塚 (鈴谷: 3~5)

針の混入については、浜中2遺跡、香深井A遺跡、オンネモト遺跡で上記にはないが豊岩7遺跡、TK67遺跡でも針の混入が認められる。

オンコロマナイ貝塚については、鈴谷期の墳墓に埋葬品から針入れ数本と針入れの装飾及び留め具と思われるコハク玉が出土している。(図1、図8)

## 2. 素材の種類と彫刻

主にアホウドリの上腕骨や尺骨が使われている。なかにはワシタカ類のものもある。直径は5~10数センチに及ぶ。両端を垂直に切断(例外あり)。彫刻も線状文・絵画文・素文などがあり、針入れの形自体も数種類ある。表面はツルツルしていて磨かれたようなあたりがあり、使用の際に擦れたか磨いたのかは現在不明。

彫刻については、大きくわけて三種類あると思われる。一つに絵画彫刻された「絵画文」、二つに幾何学的彫刻が施されている「線刻文(鋸歯状文)」、三つに彫刻のあとが見られない「無文」があり、無文については製作途中だと思われる。

## 3. 使用法

おそらく千島アイヌと同様に両端を切断した管状骨に皮製の針留めを通し、下端にコハク玉や古銭で止めていたようだ。そして、首からぶら下げていたようである。千島アイヌの例とオンコロマナイ貝塚出土の例からそういえるのではないだろうか。

※ このオンコロマナイ貝塚出土の針入れとコハク玉は鈴谷貝塚のものだと天野氏が指摘している。(天野 2005)

# 針入れについて

10/12/2009  
Y.Saito

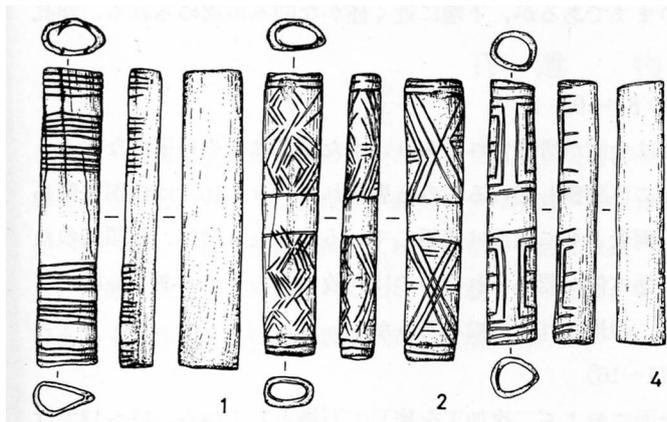
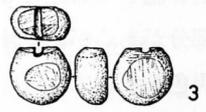


図1. 1 オンコロマナイ貝塚



2・3 3 のコハク玉が接した状態で発見。コハク玉の発見状態は、針入れの飾りであると同時に使用状態の一端を示す。

オンコロマナイ貝塚報告書より

## 4. 彫刻について

### 4-1. 線状文（鋸歯状文）

直線・波状・列点などの彫刻が施されている。



図2. 香深井 A 遺跡

### 4-2. 絵画文

海獣狩猟も状況が彫刻されている。



図3. モヨロ貝塚

### 4-3. 素文

彫刻が施されていないもの。未成品か。

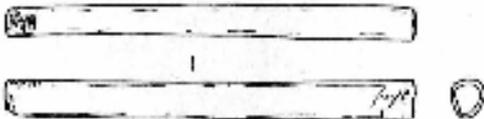


図4. 浜中 2 遺跡

## 5. 続縄文時代の針入れ

- フゴッペ洞窟遺跡
- 浜中 2 遺跡

現在この二つの遺跡から出土した資料しか入手していないが関係性があると思ひ載せてみる。

# 針入れについて

10/12/2009

Y.Saito

フゴッペ洞窟遺跡の針入れについては、おそらく鈴谷式文化期のものであろう。彫刻が鈴谷貝塚で出土した針入れに似ている。ただ似ているだけではいけないのだが、フゴッペ洞窟遺跡では鈴谷式土器の破片が出土していることから何かしらの関係性があるのではないかとと思われる。



図5. フゴッペ洞窟と鈴谷貝塚の針入れ (左: フゴッペ洞窟 右: 鈴谷貝塚)

浜中2遺跡出土の針入れについては線刻文様が異常に細かいことが見てわかる。これについてはまだわかっていないが当遺跡で出土している針入れの特徴としては線刻文様がある場合、キメの細かい彫刻が施されているようだ。そして珍しいタイプとして針入れの表面に等間隔に一行に9穴配してあるものもある。

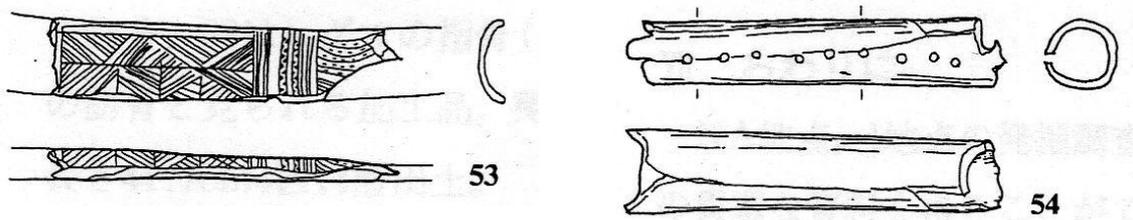


図6. 浜中2遺跡

フゴッペ洞窟遺跡のほか、恵山貝塚や豊幌町小幌洞窟遺跡、有珠モシリ遺跡などからも似たような針入れが出土している。骨製針入れとはオホーツク文化独自の道具ではなく、続縄文文化から影響をうけ、オホーツク文化に受け継がれていったものなのかもしれない。

高倉氏は2008年北海道考古学会研究大会で「オホーツク文化へ繋がる器種としては、銚頭、釣針、匙形製品、骨斧、針入れ、棒状製品、熊の意匠が挙げられる。」と述べている。



図7. 有珠モシリ

高倉氏の述べているように、北海道のオホーツク文化は続縄文文化の影響をうけ、独自の文化を形成していったのだろうか。

## 今後の課題

- 今後は入手可能な報告書等から針入れの表を作り分類していく。
- 続縄文文化とオホーツク文化の関係性について。
- 彫刻別の使用法について。

# 針入れについて

10/12/2009

Y.Saito

以上

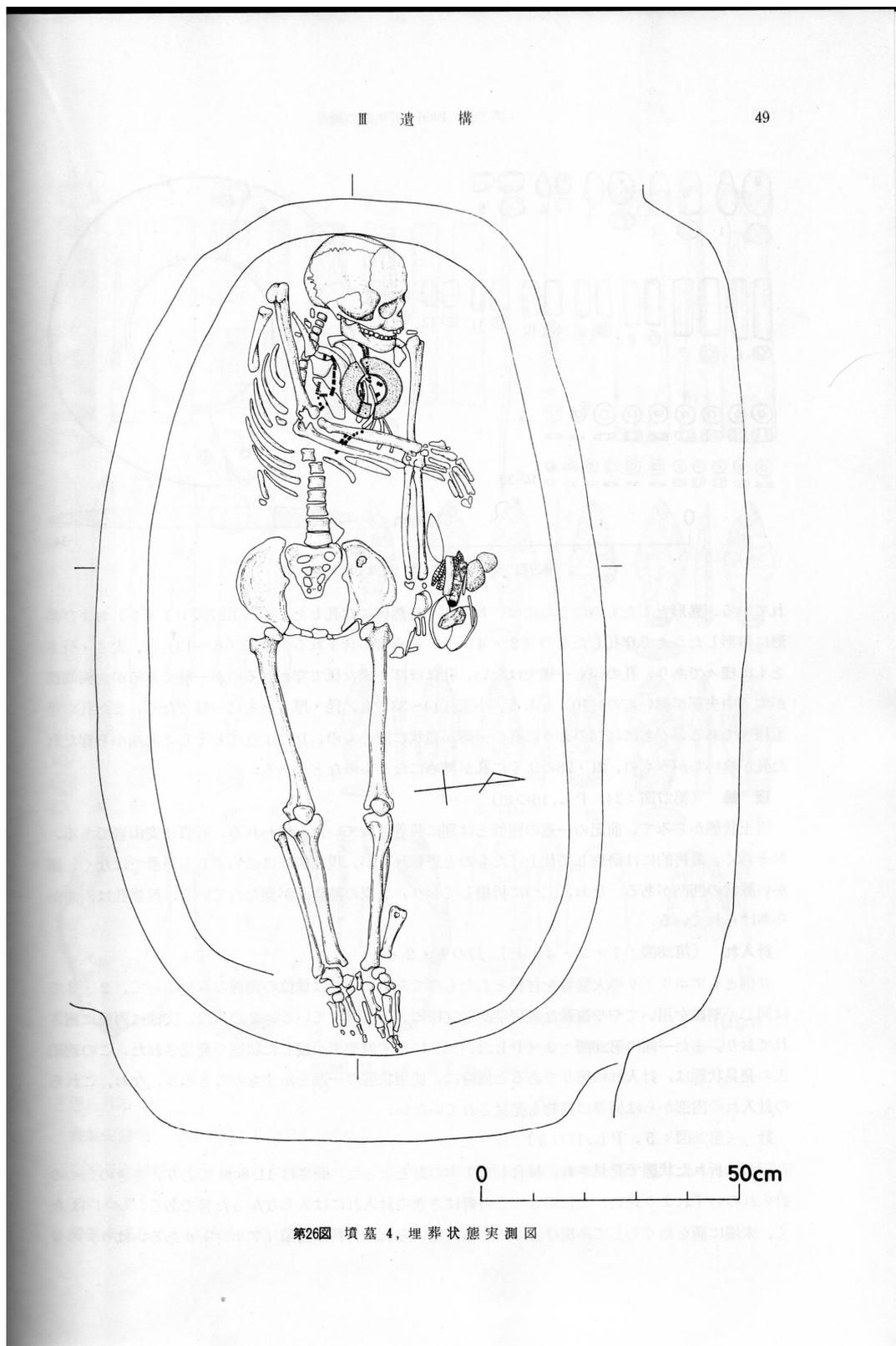
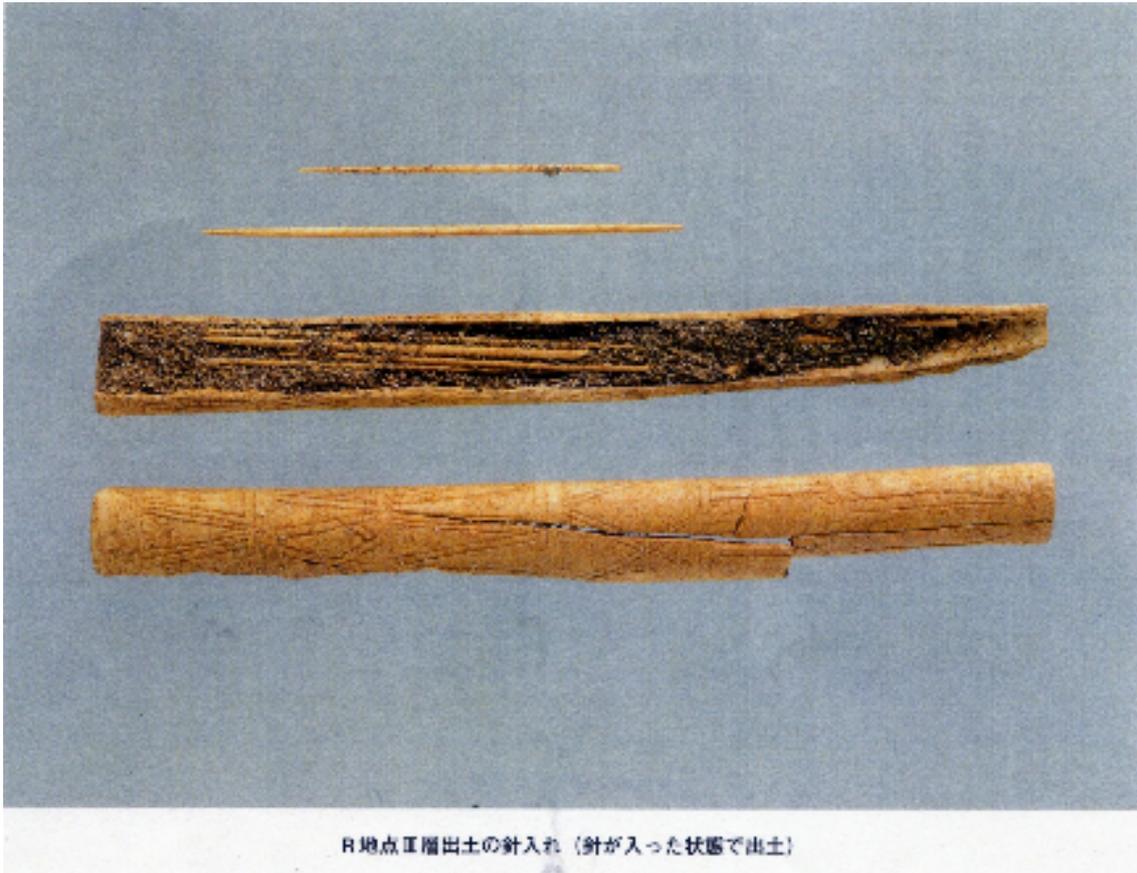


図8. オンコロマナイ貝塚 墳墓4

# 針入れについて

10/12/2009  
Y.Saito



B地点Ⅱ層出土の針入れ（針が入った状態で出土）



31、弁天島遺跡出土の捕鯨図の彫られた針入れ（長さ 8 cm） 北橋保男氏提供

# 針入れについて

10/12/2009

Y.Saito

## 参考文献

- 天野哲也 2005 「ススヤ文化の葬制について」『海と考古学』
- 大場利夫 1955 「モヨロ貝塚出土の骨角器」『北方文化研究』 10
- 大場利夫・大井晴男 1973 『オンコロマナイ貝塚』 東京大学出版
- 大場利夫 1976 『香深井遺跡』 東京大学出版
- 高倉 純 2008 「続縄文時代石器群の変遷と鉄器化との関連」『2008年 北海道考古学会研究大会「続縄文文化とは何か」』
- 坪井正五郎 1908 「カラフト石器時代遺跡発見の鳥骨管」『東京人類学会雑誌』 23-263
- 西本豊弘 2000 「浜中2遺跡発掘調査報告書（アイヌ文化の成立過程について）」『国立民俗博物館研究報告』 85
- 西本豊弘 2003 「根室市弁天島遺跡発掘調査報告（アイヌ文化の成立過程についてⅡ）」『国立民俗博物館研究報告』 107
- フゴッペ洞窟調査団 1970 『フゴッペ洞窟』 ニュー・サイエンス社
- 前田潮、山浦清 2002 「礼文島浜2遺跡第2～4次発掘調査報告」『筑波大学先史学・考古学研究』 13
- 羅臼町教育委員会 1991 「オタフク岩遺跡（第1地点・第2地点・洞窟）」『羅臼町文化財報告』 14